チャイルドシートアセスメント 2010-2011

子供を大切に思う親の チャイルドシート 選び方BOOK

製品別安全性能
比較評価一覧

国土交通省
独立行政法人自動車事故対策機構

より信頼できる安全な製品を選びたいと思いませんか?

**国土交通省と自動車事故対策機構では、市販のチャイルドシートについて
前面衝突試験と使用性評価試験を行い、その結果を安全性能の評価として公表しています。
皆さまの大切なお子さんのために、このパンフレットをご活用いただき
より安全なチャイルドシートを選んでいただければと思います。**

安全性能の評価の見方 (詳細はP18～21)

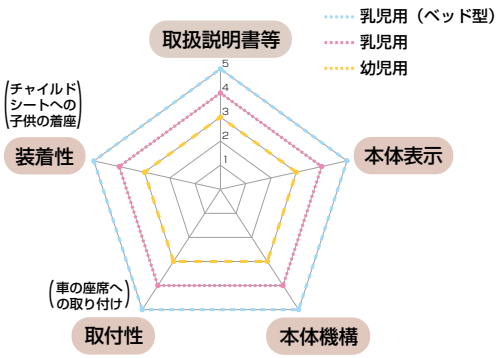
前面衝突試験の評価

試験結果に基づく評価を「優」、「良」、「普通」、「推奨せず」の4段階で表しています。

優 良 普 推奨せず

使用性評価試験

使いやすさや取り付け方など使用性について内容ごとに5点満点で点数をつけて、評価項目ごとの平均点を“グラフ”で表示しています。



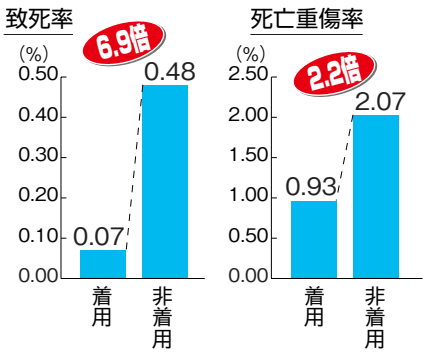
チャイルドシートアセスメントの目的

信頼できる安全性能評価を公表して、より安全な製品を選択しやすい環境を整えるとともに、製作者によるより安全な製品の開発を促すことによって、安全なチャイルドシートの普及を促進しようとするものです。

チャイルドシート着用の効果

チャイルドシートをしないとどうなるの？

■チャイルドシートの有無の致死率 死亡重傷率の比較



チャイルドシートの着用、非着用の事故データを見ると、着用時と非着用時とでは致死率、死亡重傷率に大きな差があることがわかります。
被害を最小限にするためにも、安全な製品を選び、正しく使用しましょう。

■2010年中の6歳未満の幼児の自動車同乗中の交通事故発生状況

被害状況 / チャイルドシート着用の有無	被害者数				被害率	
	死者数	重傷者数	軽傷者数	計	致死率	死亡重傷率
着　用	5人	61人	7,032人	7,098人	0.07%	0.93%
非 着 用	13人	43人	2,652人	2,708人	0.48%	2.07%
着用不明	0人	3人	130人	133人	0.00%	2.26%

(注)·致死率=死者数÷全死傷者数×100[%]　·死亡重傷率=(死者数+重傷者数)÷全死傷者数×100[%]
·警察庁資料より抜粋

Contents

チャイルドシート着用の効果……2
チャイルドシートアセスメントの結果
乳児専用……4
チャイルドシート使用状況全国調査……5
乳児用·幼児用(兼用タイプ)……6
パワーウインド使用上の注意……13
幼児専用……14
I 前面衝突試験
1 試験方法……18
2 評価方法……18·19
3 腹部圧迫……20
II 使用性評価試験
1 試験方法·評価方法……21
チャイルドシートは正しい知識で安全に利用
自動車との適合性……22
取り付け方法……22
取り付け時の注意点……22
チャイルドシート安全基準マーク……22·23
自動車のチャイルドシート取付具の種類……23

カテゴリー別掲載製品一覧

NEW 本年度試験を行った製品です。

カテゴリー	製品名	メーカー名（輸入品にあっては発売元）	頁
乳児専用 ベビーシートと呼ばれることもあります。 適用体重10kg未満又は13kg未満 身長が70cm以下 新生児から1歳ぐらい	グッドキャリー	コンビ（株） Combi	4
	ベビーズシート	（株）日本育児 Nihon ikuji	4
	マキシコシ・カブリオフィックス	（株）GMPインターナショナル MAXI-COSI	4
	レーマー・ベビーセーフプレミアム	VCJコーポレーション（株） Römer	5
乳児用・幼児用（兼用タイプ） （ベッド型含む） （1台で、3通りの使い方ができる機種） 	ベッティーノSTD マシュマロベッドグランデWサーモ750	アップリカ・チルドレンズプロダクツ（株） Aprica	6
乳児用・幼児用（兼用タイプ） （1台で、2通りの使い方ができる機種） 	エールベベ・クルットNT NEW すくすくターン エールベベ・ズット	（株）カーメイト AILEBEBE	7
	ラクティアターン コッコロ UX プリムロング ゼウスターンEG	コンビ（株） Combi	8
	takata04-smartfix NEW takata04-neo premium takata04-symphonyEC takata04-facil takata04-system3.0 トヨタG-Child plus takata04-neo	タカタ（株） TAKATA	9 10
	パミオドゥーエ ユーロビギン パミオウーノ ピピデビューN	リーマン（株） LEAMAN	11 12
幼児専用 チャイルドシートと呼ばれることもあります。 適用体重9～18kg 身長が65～100cm 1～4歳ぐらい	ユーロハーネス NEW ユーロジュニア	アップリカ・チルドレンズプロダクツ（株） Aprica	14
	エールベベ・グローバ NEW エールベベ・サラット3ステップII	（株）カーメイト AILEBEBE	14
	ハーネスフィットロング ブオンキッズEG	コンビ（株） Combi	15
	NEWトラベルベスト ハイバックブースター	（株）日本育児 Nihon ikuji	16
	ファンキッズ	（株）ミクニ IKUNI	16
	Young Sport RECARO Start R1	レカロ（株） RECARO	17

注：対象となる身長、年齢は目安です。
2001年から試験を実施していますが、過去の製品につきましてはホームページをご覧ください。

乳児専用

対象：体重10kg未満用又は13kg未満　進行方向に対して後ろ向きに使用

グッドキャリー

新基準適合品　E4 04443638（2007年度実施）　Combi

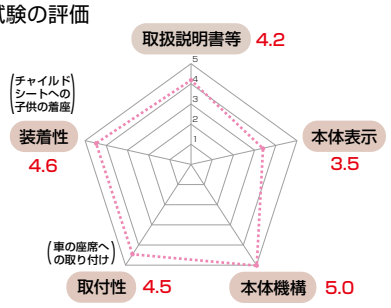
3.3kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳 児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳 児
取付部等の破損	◎
シートバックの傾き	◎
頭部のはみ出し	◎
胸部に生じる力	○
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 4.4



ベビーズシート

旧国連基準適合品　E1 03301179（2009年度実施）　Nihon ikuji

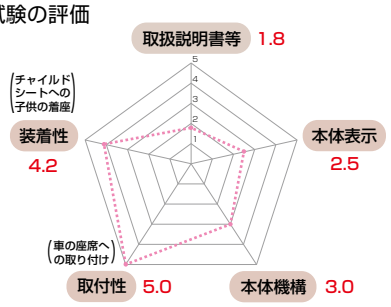
3.5kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳 児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳 児
取付部等の破損	◎
シートバックの傾き	◎
頭部のはみ出し	○
胸部に生じる力	◎
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.3



マキシコシ・カブリオフィックス

新基準適合品　E4 04443517（2008年度実施）　MAXI-COSI

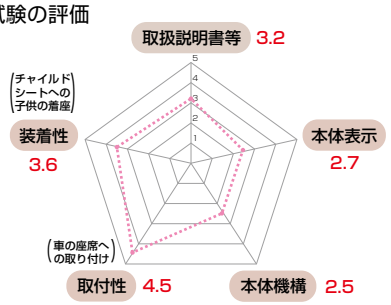
3.5kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳 児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳 児
取付部等の破損	◎
シートバックの傾き	◎
頭部のはみ出し	◎
胸部に生じる力	○
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.3



kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18～20）
- 優：4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 良：4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 普：「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
- 推奨せず：評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品　2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品　2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

旧国連基準適合品　旧国連基準（ECE規則第44号第3改訂版）に適合したもの。

レーマー・ベビーセーフプレミアム　新基準適合品　E104301146（2009年度実施）

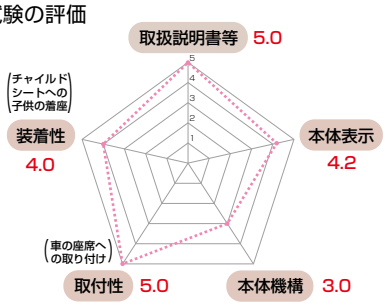
3.7kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児
評　価	優

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児
取付部等の破損	◎
シートバックの傾き	◎
頭部のはみ出し	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 4.2



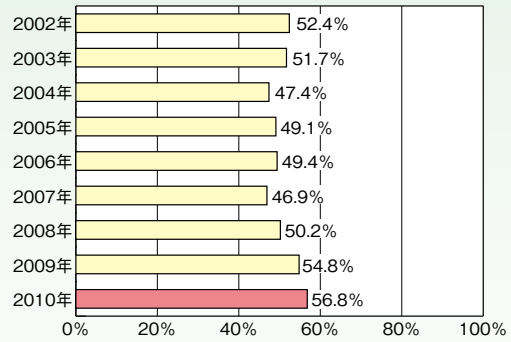
チャイルドシート使用状況全国調査　警察庁／日本自動車連盟（JAF）

JAF（社団法人日本自動車連盟）と警察庁は、自動車乗車中の６歳未満の子どもを対象に「チャイルドシートの使用状況」と「チャイルドシートの取付け状況」等の合同調査を全国で実施しました。結果(要旨)は、以下の通り。

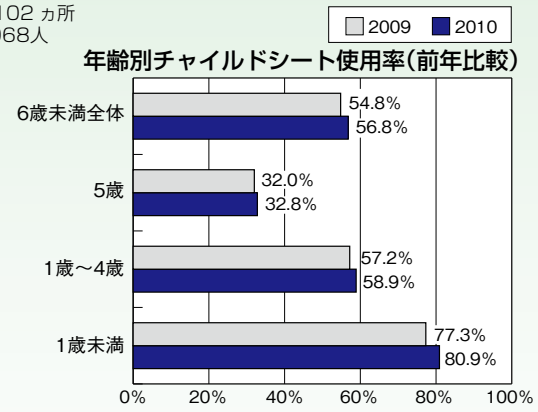
●チャイルドシート使用状況調査結果

調査期間　2010年4月20日（火）～30日（金）
調査場所　全国102 ヵ所
調査対象　12,968人

使用状況調査の推移

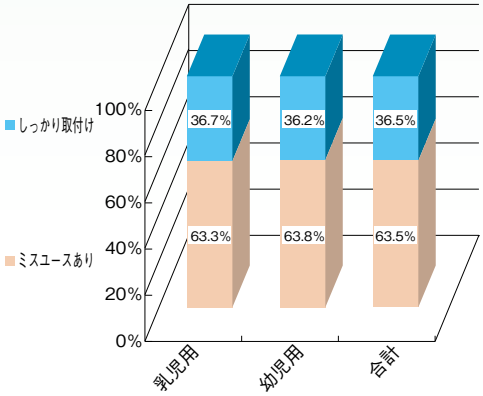


年齢別チャイルドシート使用率（前年比較）



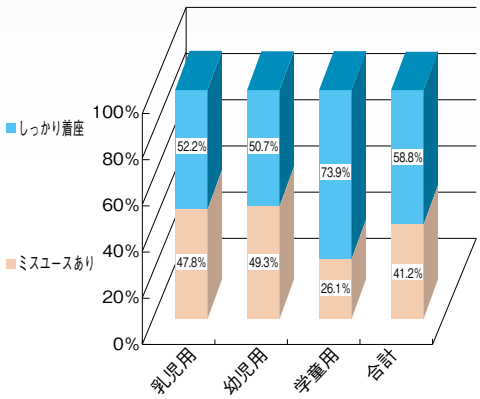
●チャイルドシート取付け状況調査結果

調査期間　2010年4月20日（火）～30日（金）
調査場所　全国8地域
（北海道・宮城・東京・愛知・大阪・広島・香川・福岡）



●チャイルドシート着座状況調査結果

期間、場所、対象者は取付け状況調査と同じ。



ベッド型含む 乳児用・幼児用（兼用タイプ）

ベッティーノSTD

新基準適合品　E13040068（2008年度実施）　Aprica

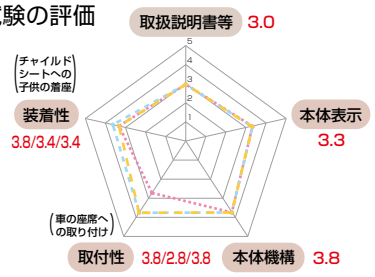
取扱い DVD 付属

14.3kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児（ベッド型）	乳児	幼児
取付部等の破損	○	○	◎
シートバックの傾き	-	◎	-
底面の傾き	◎	-	-
頭部のはみ出し	-	◎	-
頭部の前方への移動量	◎	-	○
頭部に生じる力	-	-	○
胸部に生じる力	○	○	○
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

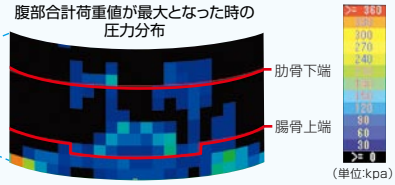
タイプごとの平均点：3.5 / 3.3 / 3.5



Ⅰ 前面衝突試験	乳児（ベッド型）	乳児	幼児
評　価	普	普	普

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.283kN
1.300kN



マシュマロベッドグランデWサーモ750

現行基準適合品　(自) C-2537（2008年度実施）　Aprica

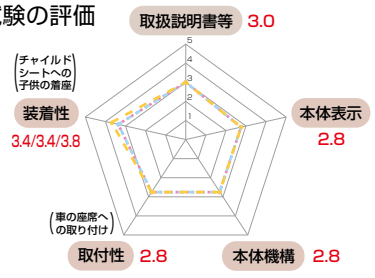
取扱い DVD 付属

14.2kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児（ベッド型）	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎	◎
シートバックの傾き	-	○	-
底面の傾き	◎	-	-
頭部のはみ出し	-	◎	-
頭部の前方への移動量	◎	-	○
頭部に生じる力	-	-	○
胸部に生じる力	○	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

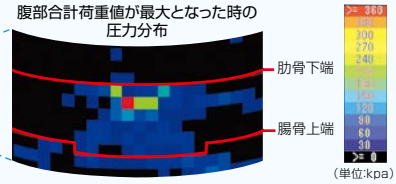
タイプごとの平均点：3.0 / 3.0 / 3.0



Ⅰ 前面衝突試験	乳児（ベッド型）	乳児	幼児
評　価	良	良	普

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.372kN
1.300kN



エールベベ・クルットNT

NEW　新基準適合品　E404443842（2010年度実施）　AILEBEBE

取扱い DVD 付属

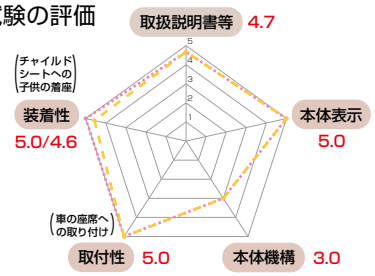
13.3kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎※1	◎※1
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	○	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	-	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

※1サポートレッグに変形が発生したが、それは衝撃吸収機構の作動によるものである。

Ⅱ 使用性評価試験の評価

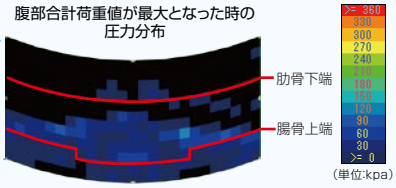
タイプごとの平均点：4.5 / 4.5



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	良	優

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.588kN
1.300kN



kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18〜20）
- 優：4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 普：「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
- 良：4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 推奨せず：評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品　2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品　2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

すくすくターン

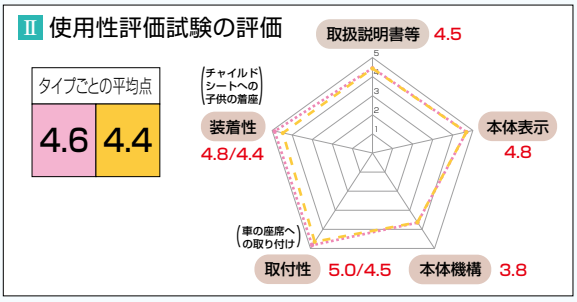
現行基準適合品　自 C-2530（2007年度実施）　AILEBEBE

12.4kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	普	普

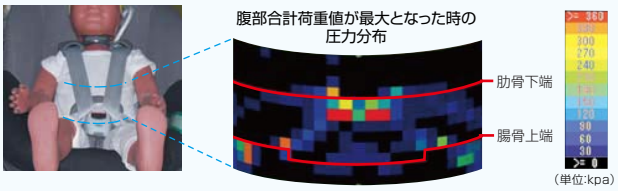
Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	○
シートバックの傾き	○	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	○	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.832kN
1.300kN



エールベベ・ズット

現行基準適合品　自 C-2516（2006年度実施）　AILEBEBE

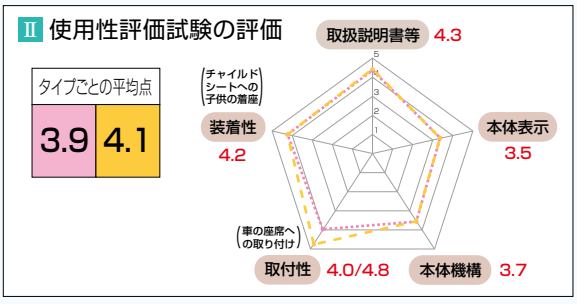
取扱い ビデオ 付属

8.3kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	良

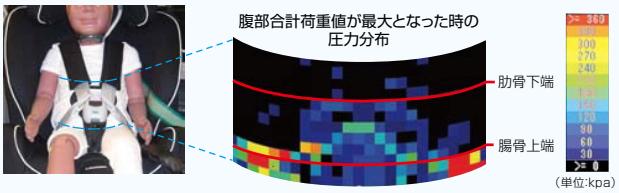
Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.692kN
1.380kN



ラクティアターン

新基準適合品　E4043840（2009年度実施）　Combi

取扱い DVD 付属

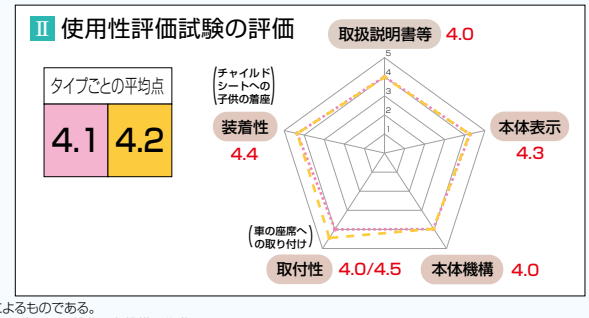
14.9kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	良	普

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎※1	◎※2
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	○	○
胸たわみ（肋骨の底付き）	-	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

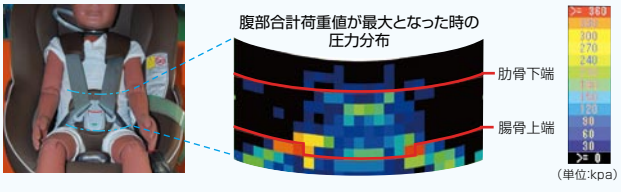
※1サポートレッグに変形が発生したが、それは衝撃吸収機構の作動によるものである。
※2サポートレッグ及びシート部に内蔵された接続板金に変形が発生したが、それは衝撃吸収機構の作動によるものである。

Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.814kN
1.300kN



説明映像：取扱説明書等のDVDやビデオが同梱してある場合はこのマークで表示しています。これは評価の対象とはしていません。

コッコロ UX

新基準適合品　E13045025（2008年度実施）　Combi

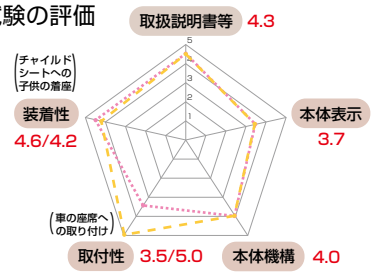
4.4kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	良	普

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	○	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

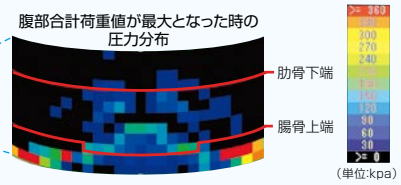
Ⅱ 使用性評価試験の評価

タイプごとの平均点　4.0　4.2



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.417kN
1.300kN



プリムロング

現行基準適合品　自 C-2030（2003年度実施）　Combi

取扱い ビデオ 付属

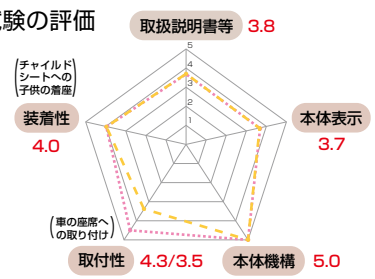
7.4kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	普

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	○
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

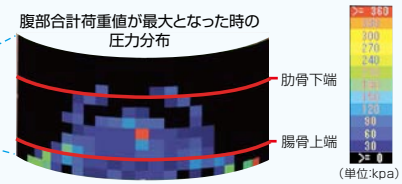
Ⅱ 使用性評価試験の評価

タイプごとの平均点　4.2　4.0



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.384kN
1.380kN



ゼウスターンEG

現行基準適合品　自 C-1005 / 自 C-180（2002年度実施）　Combi

取扱い ビデオ 付属

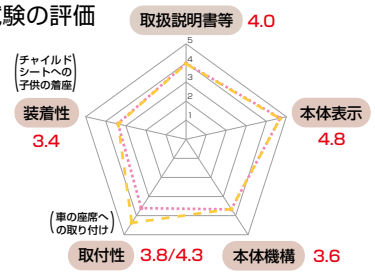
Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	良	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎※1	◎※1
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	○	◎
その他の事象	なし	※2

※1サポートレッグに変形が発生したが、それは衝撃吸収機構の作動によるものである。
※2骨盤拘束が弱く、腹部を圧迫しているが、それはバックル・ハーネスによってである。

Ⅱ 使用性評価試験の評価

タイプごとの平均点　3.9　4.0



kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18～20）
優 4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
普 「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
良 4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
推奨せず 評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品 2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品 2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

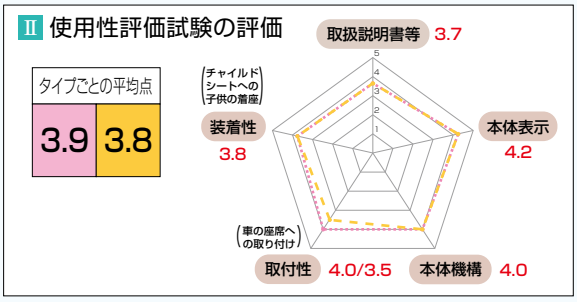
takata04-smartfix NEW 新基準適合品 E4 04443909（2010年度実施） TAKATA

10.3kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	優

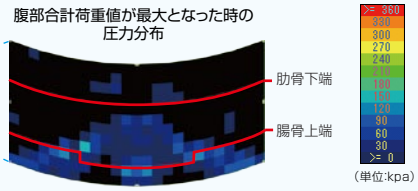
Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	-	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.365kN
1.300kN



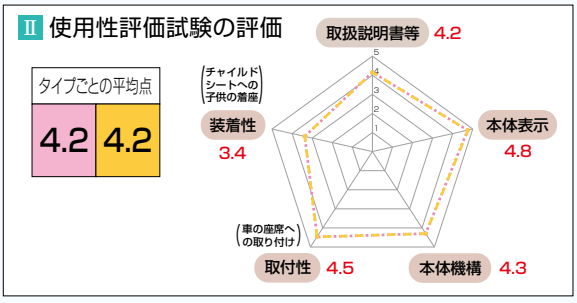
takata04-neo premium 現行基準適合品 自 C-2539（2009年度実施） TAKATA

10.3kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	普	優

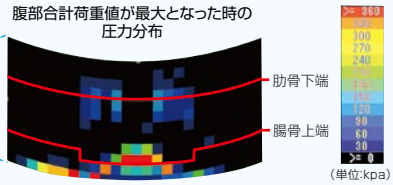
Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	○	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	○	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	-	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.437kN
1.300kN



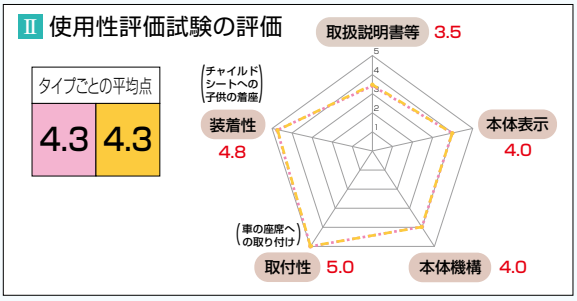
takata04-symphonyEC 新基準適合品 E4 04443812（2008年度実施） TAKATA

6.1kg

Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	普

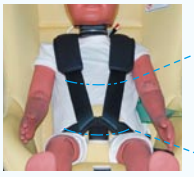
Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

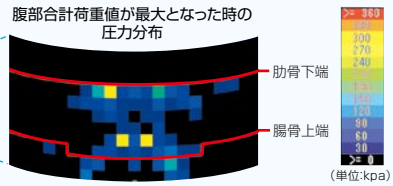
Ⅱ 使用性評価試験の評価



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.297kN
1.300kN





乳児用・幼児用（兼用タイプ）

◎ 説明映像：取扱説明書等のDVDやビデオが同梱してある場合はこのマークで表示しています。これは評価の対象とはしていません。

takata04-facil

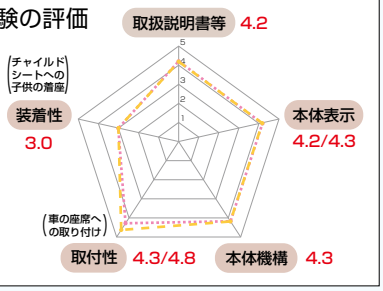
現行基準適合品　自 C-2529（2007年度実施）　TAKATA

8.9kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

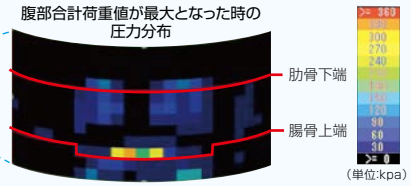
タイプごとの平均点：4.0　4.1



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	優

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.285kN
1.300kN



takata04-system3.0

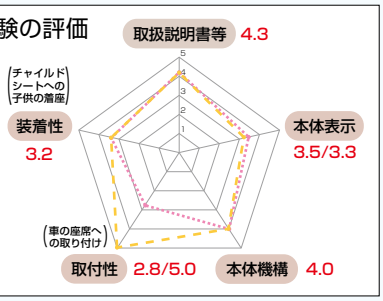
現行基準適合品　自 C-2029（2005年度実施）　TAKATA

5.8kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

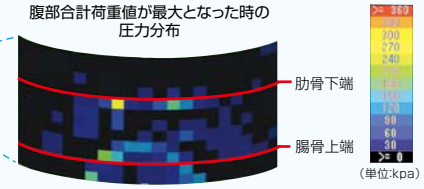
タイプごとの平均点：3.6　4.0



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	良

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.318kN
1.380kN



トヨタ G-Child plus

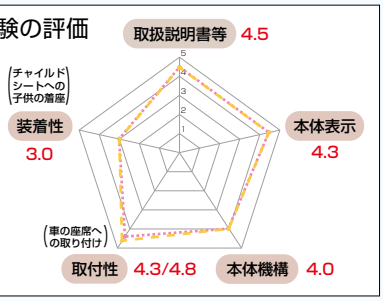
現行基準適合品　自 C-2047（2004年度実施）　TAKATA

6.7kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

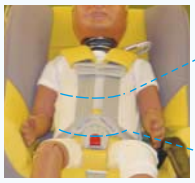
タイプごとの平均点：4.0　4.1

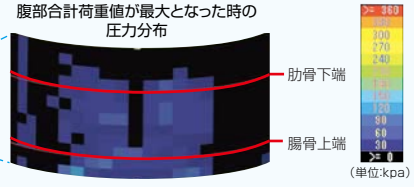


Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	良

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.224kN
1.380kN





kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18～20）
- 優：4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 良：4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 普：「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
- 推奨せず：評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品：2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品：2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

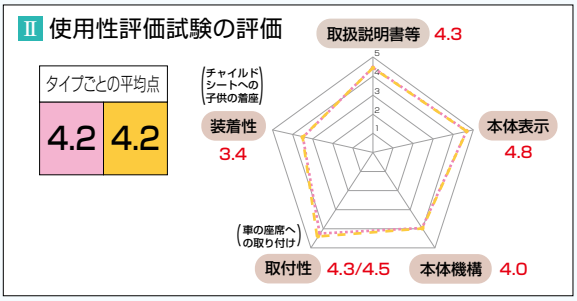
takata04-neo

現行基準適合品　自 C-2046（2004年度実施）　TAKATA

10.0kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

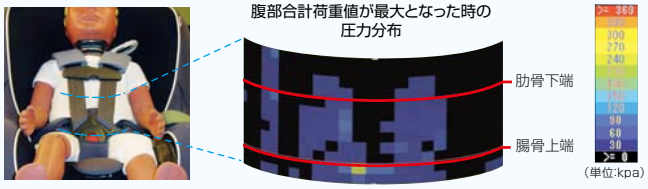
Ⅱ 使用性評価試験の評価



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	優

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.199kN
1.380kN



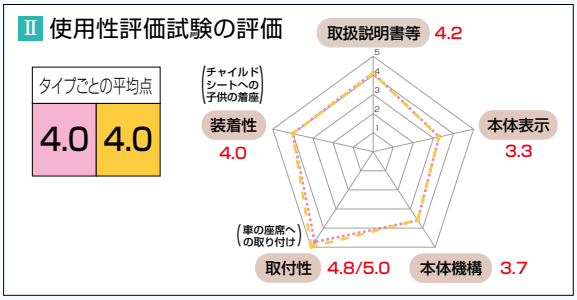
パミオドゥーエ

新基準適合品　E8044399（2009年度実施）　LEAMAN

7.4kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	◎
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	◎	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	-	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

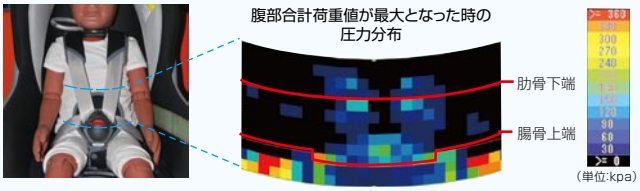
Ⅱ 使用性評価試験の評価



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	良

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.484kN
1.300kN



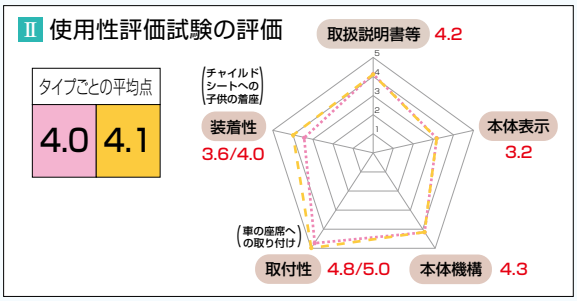
ユーロビギン

新基準適合品　E8044400（2007年度実施）　LEAMAN

6.3kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

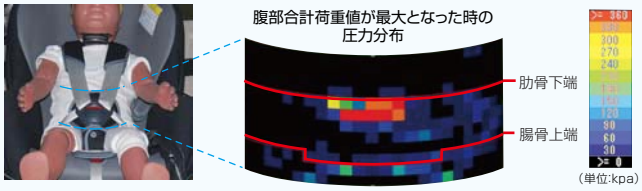
Ⅱ 使用性評価試験の評価



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	普

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.684kN
1.300kN



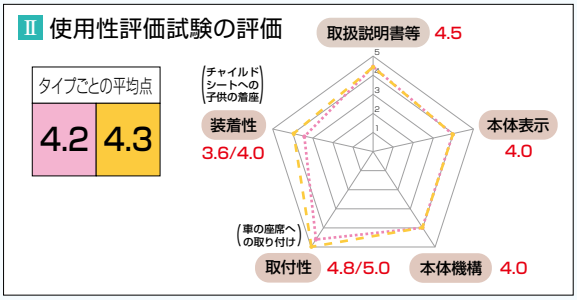
パミオウーノ

新基準適合品　E8044159（2006年度実施）　LEAMAN

6.7kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	○
胸部に生じる力	○	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

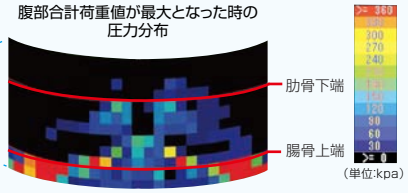
Ⅱ 使用性評価試験の評価



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	良	普

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.627kN
1.380kN



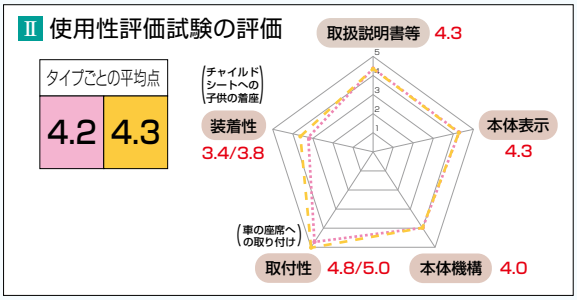
ピピデビューN

現行基準適合品　自 C-2054（2004年度実施）　LEAMAN

6.2kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	乳児	幼児
取付部等の破損	◎	◎
シートバックの傾き	◎	-
頭部のはみ出し	◎	-
頭部の前方への移動量	-	○
頭部に生じる力	-	◎
胸部に生じる力	◎	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし	なし

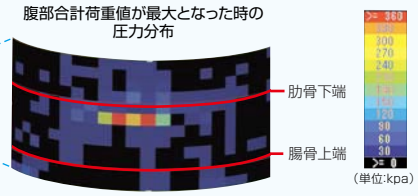
Ⅱ 使用性評価試験の評価



Ⅰ 前面衝突試験	乳児	幼児
評　価	優	良

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.306kN
1.380kN



kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

パワーウインドの注意喚起

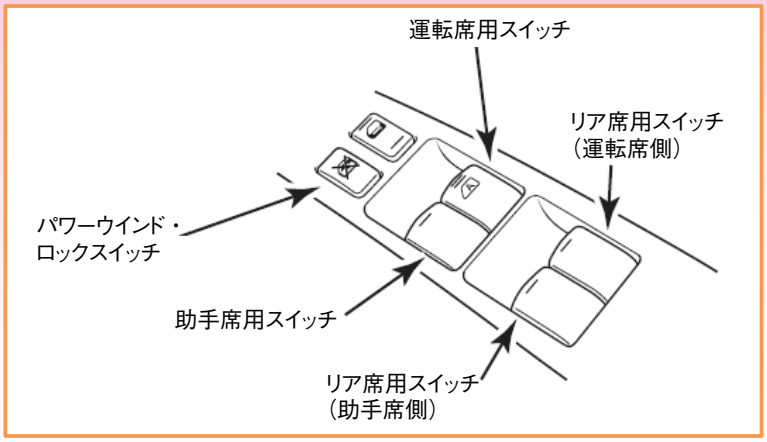
自動車のパワーウインドで 指等を挟み込まないように注意しましょう!

パワーウインド（スイッチを操作することにより窓ガラスを電動で開閉する装置）によって、指等を挟み込み骨折等をする事故が発生しています。

パワーウインドを操作する場合には、子どもの指等を挟み込まないように注意すると共に子どもが操作しないように注意しましょう。また、小さな子どもを置いて車から離れないようにしましょう。

パワーウインド使用上の注意

1．パワーウインドの構造上の特性や、所有している自動車の操作方法を理解しましょう。
- 取扱説明書の使用上の注意を再確認しましょう。
- オート作動する窓には、挟み込み防止機能がついていますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを検知できない領域があります。



2．後部座席等に子どもが乗っている状況ではパワーウインドのロック機能及びチャイルドシートを使用しましょう。

3．他席のウインドの操作の前には、声かけや確認を行いましょう。

幼児専用

対象：体重9～18kg以下用　進行方向に対して前向きに使用

ユーロハーネス　NEW　新基準適合品　E11 040205（2010年度実施）　Aprica

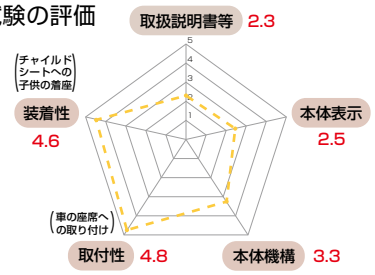
9.3kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	なし
その他の事象	なし

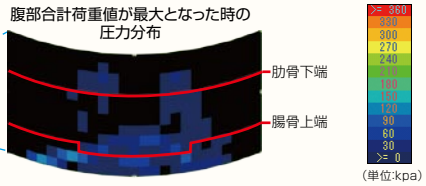
Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.5



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.200kN
1.300kN



（単位:kpa）

ユーロジュニア　新基準適合品　E13 040067（2007年度実施）　Aprica

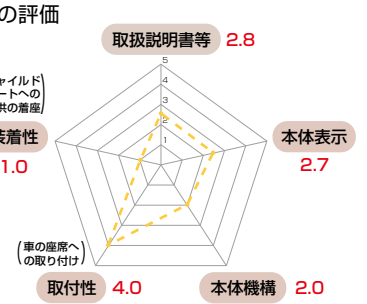
6.5kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	インパクトシールドタイプであるため、評価は行わない。（P18・19の評価方法を参照。）

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	ダミーの肋骨が最大まで変形した。（現在、胸部の変形の評価方法は確立していない。）

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 2.5



腹部圧迫の計測結果

インパクトシールドタイプであり、腹部への圧力を正確に計測できないことがあるため、腹部合計荷重値は公表しないこととした。
（P18･19の評価方法を参照。）

エールベベ･グローバ　NEW　新基準適合品　E4 04443839（2010年度実施）　AILEBEBE

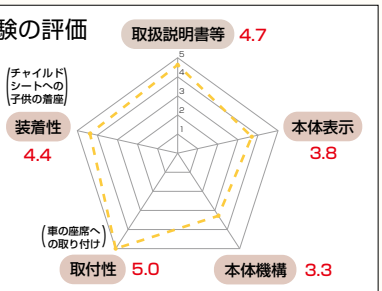
7.4kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	なし
その他の事象	なし

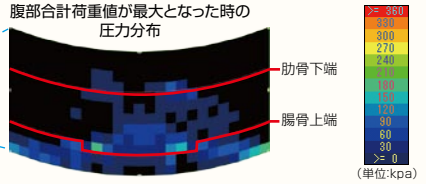
Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 4.2



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.414kN
1.300kN



（単位:kpa）

kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18〜20）
- 優：4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 良：4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 普：「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
- 推奨せず：評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品　2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品　2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

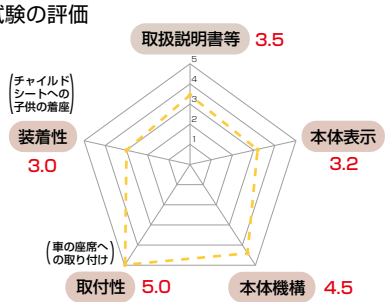
エールベベ・サラット3ステップⅡ　現行基準適合品　自 C-2505（2007年度実施）　AILEBEBE

5.1kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	ダミーの肋骨が最大まで変形した。（現在、胸部の変形の評価方法は確立していない。）

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.8



Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	インパクトシールドタイプであるため、評価は行わない。（P18・19の評価方法を参照。）

腹部圧迫の計測結果

インパクトシールドタイプであり、腹部への圧力を正確に計測できないことがあるため、腹部合計荷重値は公表しないこととした。（P18·19の評価方法を参照。）

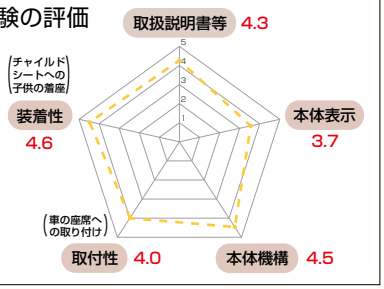
ハーネスフィットロング　新基準適合品　E4 04443710（2007年度実施）　Combi

5.9kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

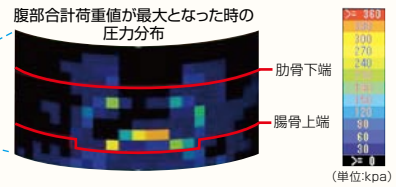
平均点 4.2



Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	良

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.442kN
1.300kN



ブオンキッズEG　現行基準適合品　自 C-2064（2005年度実施）　Combi

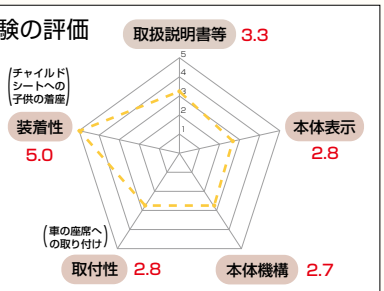
取扱いビデオ付属

16.8kg

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	○
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

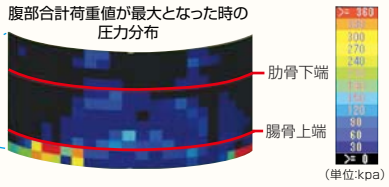
平均点 3.3



Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	普

腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.304kN
1.380kN



幼児専用

説明映像：取扱説明書等のDVDやビデオが同梱してある場合はこのマークで表示しています。これは評価の対象とはしていません。

NEWトラベルベスト

米国基準適合品（2006年度実施）

Nihonikuji

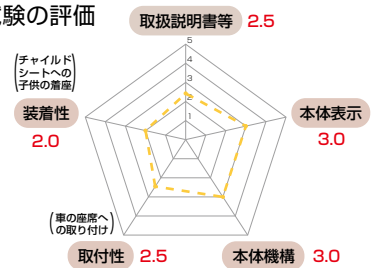
1.2kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	普

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	○
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 2.6

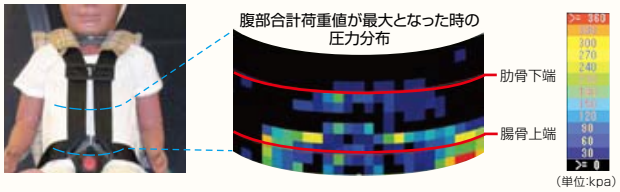


腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値

0.727kN

1.380kN



ハイバックブースター

米国基準適合品（2004年度実施）

Nihonikuji

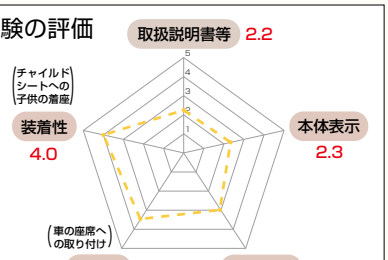
3.5kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.0

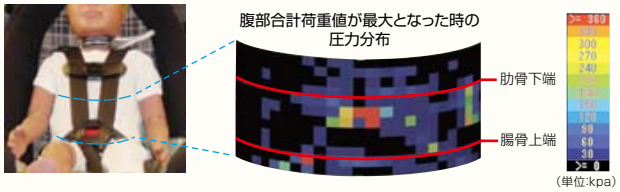


腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値

0.634kN

1.380kN



ファンキッズ

現行基準適合品（自）C-1006 / （自）C-174（2002年度実施）

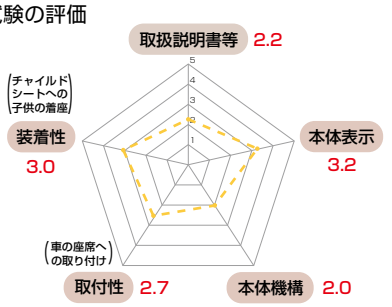
IKUNI

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	良

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼 児
取付部等の破損	○
頭部の前方への移動量	◎
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	※

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 2.6



※骨盤拘束が弱く、腹部を圧迫しているが、それはシールドによってである。

kg 製品重量：2003年度の対象製品から試験時の製品の重量を ○.○kg で表示します。これは評価の対象とはしていません。

■腹部圧迫計測方法の詳細はP20にあります。

Ⅰ 前面衝突試験（詳細はP18〜20）
- 優：4つの項目がすべて◎の場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 良：4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×が1つでもある場合は除く。）
- 普：「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合
- 推奨せず：評価項目の中で1つでも×があった場合

Ⅱ 使用性評価試験（評価の見方はP21）

新基準適合品　2006年10月に施行された国内基準に適合したもの。なお、この基準は現行の国連基準（ECE規則第44号第4改訂版）と同じものです。

現行基準適合品　2000年1月に施行された国内基準に、適合したもの。2006年10月に新基準が策定されていますが、現在販売されているチャイルドシートが改正前の基準に適合しているため、便宜上「現行基準適合品」と呼称しています。

米国基準適合品　FMVSS No.213に、適合したもの。

Young Sport

新基準適合品　E1 04301171（2009年度実施）　RECARO

8.4kg

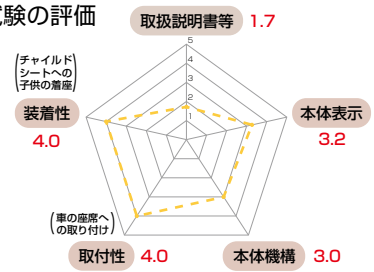
Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	普

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼児
取付部等の破損	○
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	○
胸部に生じる力	◎
胸たわみ（肋骨の底付き）	なし
その他の事象（腹部圧迫計測結果含む）	なし※

※ロックオフデバイスの破断があり、破断した破片がダミーに接触した。

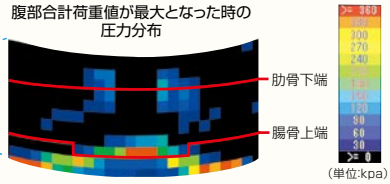
Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.2



腹部圧迫の計測結果

腹部合計荷重値
0.441kN
1.300kN



RECARO Start R1

新基準適合品　E4 04443614（2007年度実施）　RECARO

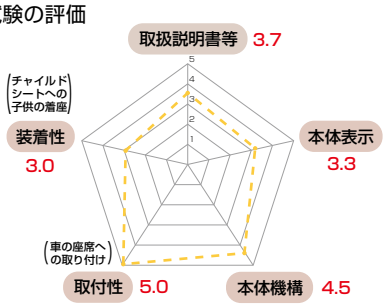
5.0kg

Ⅰ 前面衝突試験	幼児
評　価	インパクトシールドタイプであるため、評価は行わない。（P18·19の評価方法を参照。）

Ⅰ 前面衝突試験の評価	幼児
取付部等の破損	◎
頭部の前方への移動量	○
頭部に生じる力	◎
胸部に生じる力	◎
その他の事象	ダミーの肋骨が最大まで変形した。（現在、胸部の変形の評価方法は確立していない。）

Ⅱ 使用性評価試験の評価

平均点 3.9



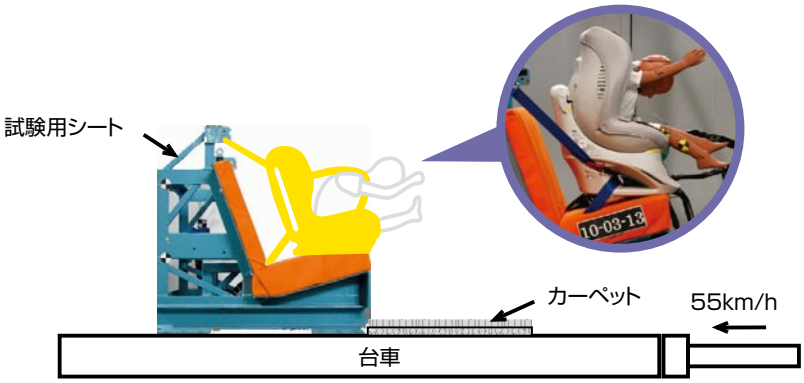
腹部圧迫の計測結果

インパクトシールドタイプであり、腹部への圧力を正確に計測できないことがあるため、腹部合計荷重値は公表しないこととした。（P18·19の評価方法を参照。）

幼児専用

Ⅰ 前面衝突試験

試験方法



台車に固定された試験用シートに子供ダミーを乗せたチャイルドシートを取り付け、その台車を速度変化が時速55km（国の安全基準の速度の1割増）となるように打ち出すことにより、自動車が前面衝突した場合と同様の衝撃を発生させます。その時、チャイルドシートの取付部等の破損状況、ダミーの頭部や胸部の合成加速度、ダミー頭部の前方への移動量、ダミーの拘束状態の加害性などの項目を計測します。

- 試験では一般の量販店で普通に購入してきたチャイルドシートを使用しています。
- 2002年度の乳児用チャイルドシート（後ろ向き）の試験において、ダミー頭部の初期姿勢の違いにより試験結果に影響を及ぼした可能性があるとの指摘により、次年度以降の試験においてダミー頭部をチャイルドシートに接触させて試験を実施しています。
- 2003年度の試験から、幼児用チャイルドシートの腹部圧迫の程度について評価を行うため面圧計を使用した定量的な測定を行っています。

試験に使う子供ダミー

CRABI 6MO

体重：7.4kg
身長：671mm
乳児用ベッド型

TNO P3/4

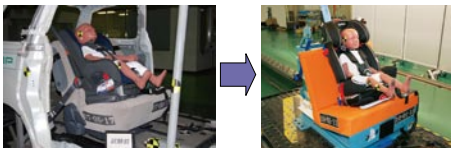
体重：9.0kg
身長：708mm
乳児用後ろ向き

Hybrid-Ⅲ 3YO

体重：15.5kg
身長：945mm
幼児用

試験用シートが変わりました

- 2009年度の試験から、チャイルドシートを取り付ける試験用シートをトヨタ·エスティマから国の安全基準における試験で使用しているチャイルドシート試験専用のシートに変更して実施しています。



トヨタ·エスティマシート（2008年度まで）

チャイルドシート試験専用シート（2009年度から）

- 評価基準値の見直し

  試験用シートの変更による影響を従来の試験との比較試験を実施して確認し、その結果に基づいて評価基準値の見直しを行いました。これは従来条件の評価結果と試験用シート変更後の評価結果をできるだけ継続して比較できるようにするために行った措置です。

評価方法

各カテゴリーの①～⑤の評価結果に応じて総合的に4段階で評価を行います。
※

優
4つの項目がすべて◎の場合（×1つでもある場合は除く。）

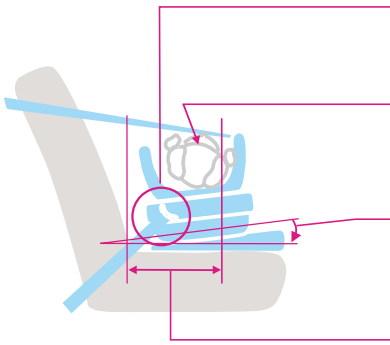
良
4つの項目の中で◎が3つ、○が1つの場合（×1つでもある場合は除く。）

普
「優」、「良」および「推奨せず」に該当しない場合

推奨せず
評価項目の中で1つでも×があった場合

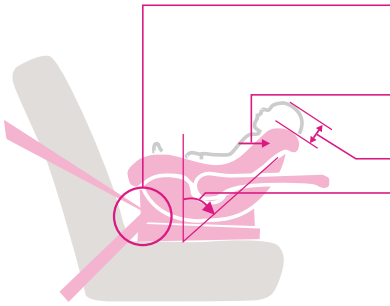
「推奨せず」は、より高い安全性能を評価する本試験の観点からは、推奨するに至らないことを表しており、使用不可という意味ではありません。試験対象とした製品は、全て安全基準に適合しており一定レベルの安全性は確保されています。

乳児用 ベッド型



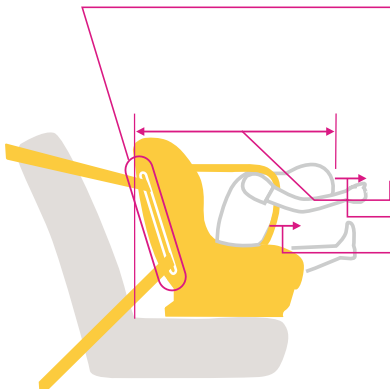
車両の進行方向

乳児用 後ろ向き型



車両の進行方向

幼児用



車両の進行方向

※インパクトシールドタイプ（自動車のシートベルトにより、インパクトシー部に計測範囲を超える大きな変形を生じさせるため、腹部への圧力を正確に

■は試験用シートの変更にともない見直しを行った評価基準値を示す。〔 〕は2008年度までの旧評価基準値を示す。

① 衝突によるチャイルドシート 取付部等の破損

◎ チャイルドシート取付部等の破損がない
○ 軽微な破損（亀裂等）があるが、拘束が保持されている場合等
× 強度を保持している部分の破損であって、本来の構造をとどめていない場合等

② 衝突によって 胸部に生じる力（胸部合成加速度）

◎ ■胸部合成加速度≦490m/s²(50G)　〔胸部合成加速度≦539m/s²(55G)〕
○ ■490m/s²(50G)<胸部合成加速度　〔539m/s²(55G)<胸部合成加速度〕

・衝突時に子供の胸部に発生する加速度が大きいと、胸に傷害を受ける可能性があります。

乳児用ベッド型試験の状況

③ 衝突時のチャイルドシート 底面の傾き

◎ ベッドの底面が水平より前方に傾かない（頭部のはみ出しなし）
○ ベッドの底面が水平まで傾く（頭部のはみ出しなし）
× ベッドの底面が前方に傾くまたは頭部のはみ出し

・衝突時にベッド底面が前方に倒れすぎると、背中以外で荷重を受け、肩等に負担がかかり、傷害を受ける危険性があります。

④ 衝突時の 頭部の前方への移動量

◎ ■頭部移動量≦575mm　〔頭部移動量≦600mm〕
○ ■575mm<頭部移動量≦650mm　〔600mm<頭部移動量≦750mm〕
× ■650mm<頭部移動量　〔750mm<頭部移動量〕

・衝突時に子供の頭部が前方に移動しすぎると、前席に衝突し、傷害を受ける危険性があります。

⑤ 衝突時に生じたその他の事象

× 衝突時にバックルが解離した
× 衝突時にチャイルドシート本体が座席ベルトから放出した

---

① 衝突によるチャイルドシート 取付部等の破損

◎ チャイルドシート取付部等の破損がない
○ 軽微な破損（亀裂等）があるが、拘束が保持されている場合等
× 強度を保持している部分の破損であって、本来の構造をとどめていない場合等

② 衝突によって 胸部に生じる力（胸部合成加速度）

◎ ■胸部合成加速度≦490m/s²(50G)　〔胸部合成加速度≦539m/s²(55G)〕
○ ■490m/s²(50G)<胸部合成加速度　〔539m/s²(55G)<胸部合成加速度〕

・衝突時に子供の胸部に発生する加速度が大きいと、胸に傷害を受ける可能性があります。

乳児用後ろ向き型試験の状況

③ 衝突時のチャイルドシートの シートバック（角度）

◎ ■シートバックの傾き≦55°　〔シートバックの傾き≦60°〕
○ ■55°<シートバックの傾き≦63°　〔60°<シートバックの傾き≦70°〕
× ■63°<シートバックの傾き　〔70°<シートバックの傾き〕

・衝突時にシートバックが車両前方に倒れすぎると、背中以外で荷重を受け、肩等に負担がかかり、傷害を受ける危険性があります。

④ 衝突時のチャイルドシート上端面からの 頭部のはみ出し

◎ 頭部のはみ出しがない
○ 頭部のはみ出しが73mm以内
× 頭部のはみ出しが73mmを超える

・衝突時に子供の頭部がチャイルドシート上端面から大きくはみ出すと、頭部が前席と接触したり、頚部に負担がかかり、傷害を受ける危険性があります。

⑤ 衝突時に生じたその他の事象

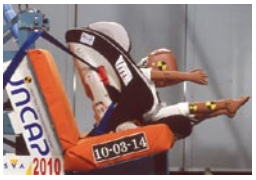
× 衝突時にバックルが解離した
× 衝突時にチャイルドシート本体が座席ベルトから放出した

---

① 衝突によるチャイルドシート 取付部等の破損

◎ チャイルドシート取付部等の破損がない
○ 軽微な破損（亀裂等）があるが、拘束が保持されている場合等
× 強度を保持している部分の破損であって、本来の構造をとどめていない場合等

幼児用試験の状況



② 衝突によって 胸部に生じる力（胸部合成加速度）

◎ 胸部合成加速度≦588m/s²(60G)
○ 588m/s²(60G)<胸部合成加速度

・衝突時に子供の胸部に発生する加速度が大きいと、胸に傷害を受ける可能性があります。

③ 衝突時の 頭部の前方への移動量

◎ ■頭部移動量≦525mm　〔頭部移動量≦550mm〕
○ ■525mm<頭部移動量≦600mm　〔550mm<頭部移動量≦700mm〕
× ■600mm<頭部移動量　〔700mm<頭部移動量〕

・衝突時に子供の頭部が前方に移動しすぎると、前席に衝突し、傷害を受ける危険性があります。

④ 衝突によって 頭部に生じる力（頭部合成加速度）

◎ ■頭部合成加速度≦637m/s²(65G)　〔頭部合成加速度≦784m/s²(80G)〕
○ ■637m/s²(65G)<頭部合成加速度　〔784m/s²(80G)<頭部合成加速度〕

・衝突時に子供の頭部に発生する加速度が大きいと、頭部に傷害を受ける可能性があります。

⑤ 衝突時の胸たわみ

肋骨の底付き信号がONの場合はコメントを行う

⑥ 衝突時に生じたその他の事象

× 衝突時にバックルが解離した
× 衝突時にチャイルドシート本体が座席ベルトから放出した
× 衝突時において、ハーネスが腹部等身体の弱い部分を圧迫する等幼児に傷害を与えるおそれがある

・幼児用の場合、ハーネスやシールド等が肩および骨盤において身体を拘束する必要があります。これらの拘束が適切でなく、身体の弱い部分（頚部、腹、股間等）を圧迫して身体を拘束している場合が該当します。

ルド（衝突試験時、子供の体が飛び出すことを防ぐ拘束装置）を介して、チャイルドシートと子供の体を一体的に拘束するタイプ）のチャイルドシートについては、インパクトシールドがダミー胸部や腹計測できないことがあり、腹部圧迫計測を開始した2003年度以降の試験対象機種の前面衝突試験の総合的な評価を行っていません。

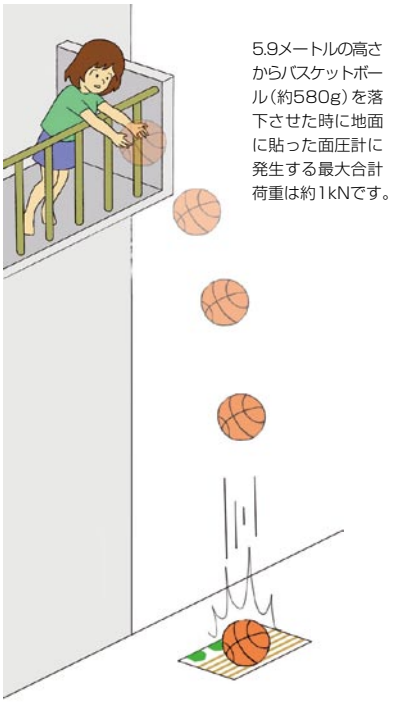
各項目の評価結果は、チャイルドシートを正しい使用状態で試験を行った結果であり、正しい状態でない場合は本来の機能が発揮されません。

腹部圧迫の計測方法

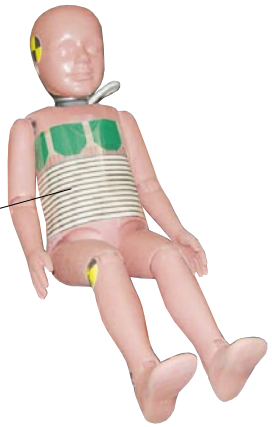
衝突時に幼児の腹部を圧迫するチャイルドシートがあるため、2003年度から幼児用チャイルドシート試験時にダミー腹部に面圧計を装着して腹部圧迫の程度を定量的に測定しています。腹部とみなされる肋骨の下端から骨盤（腸骨部分）の上端にかかる荷重の総和を腹部合計荷重として、その値が幼児の身体に傷害を与えるとみなされる1.30kN（※2006年度までは1.38kN）を超える場合は「その他の事象」の評価を「×」としています。

注意ポイント

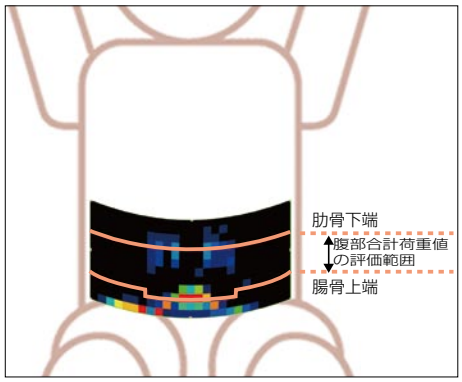
1.試験に使用している3歳児ダミー（Hybrid-Ⅲ　3YO）は人体と同じではなく、腹部は約50mm以上凹まない構造となっています。一方、胸部は約40mm以上凹まない構造となっており、腹部の凹み量と異なっています。このため、限界まで圧迫が加わると、胸部と腹部の圧力を正しく計測できません。
2.腹部合計荷重が最大となった時の圧力分布図については、最大荷重が発生した時間の圧力分布の状況を見やすくしたものであり、実際の面積とは異なります。



5.9メートルの高さからバスケットボール（約580g）を落下させた時に地面に貼った面圧計に発生する最大合計荷重は約1kNです。



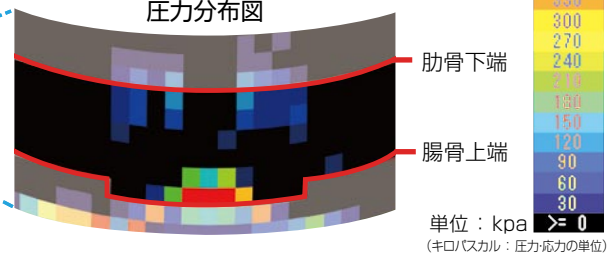
面圧計
測定面積は上下方向12cm、左右方向25cmの長方形で、下段部を脚部の付け根に合わすように貼り付けます。薄いフィルムを合わせた電気式圧力計測センサーで、データを計測します。



腹部圧迫の計測結果例

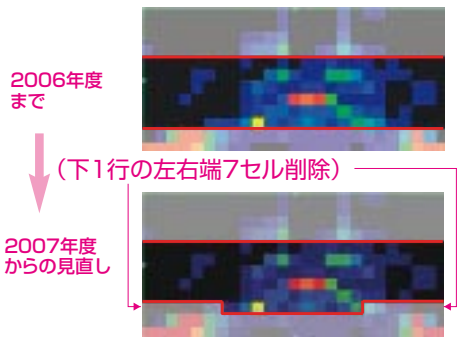
腹部合計荷重値
0.437kN
↑
1.30kN以下なので○

腹部合計荷重値が最大となった時の圧力分布図



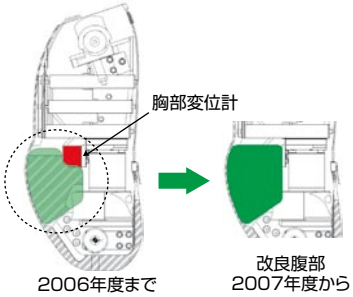
●評価範囲の見直し等について

評価範囲の見直し



腹部圧迫計測においては、ダミー構造に起因した問題により、正しく計測できない場合があり、2006年、2007年度に行った調査研究により評価範囲の見直し及びダミー腹部の改良を行いました。これに伴いその値が幼児の身体に傷害を与えるとみなされる腹部合計荷重値が1.38kNから1.30kNへ変更しています。なお、2007年度の試験からこの新評価範囲及び改良ダミーにより試験を実施しています。

3歳児ダミー（Hybrid-Ⅲ 3YO）の改良



2007年度から胸部変位計を取り外し、腹部インナーの形状を変更した。

Ⅱ 使用性評価試験 ママでも簡単、確実に取り付けられるかを判定しています。

試験方法

チャイルドシートを実際に使用される際、誤った取り付けが多数見受けられます。ユーザーが自動車の座席にチャイルドシートを取り付ける際、確実に取り付けられるように配慮されているかなどを、複数のチャイルドシートの専門家が判定しています。

試験用車両の変更

- チャイルドシートの取付性等を評価する場合に使用する車両（カットボディ）を「トヨタ·エスティマ」から汎用型ISOFIXチャイルドシート適応車の「トヨタ·ヴェルファイア」に変更しました。

トヨタ·エスティマ（2008年度まで）

トヨタ·ヴェルファイア（2009年度から）

評価方法

内容ごとに5点満点で点数をつけ、評価項目ごとの平均点を表示します。

黄色は汎用型ISOFIXチャイルドシートについて評価対象を追加した項目です。

取扱説明書等

取扱説明書等

- 取り付けおよび装着について説明がある。技術基準に定めるすべての記述がある。
- 取り付けおよび装着について、図版と文章で理解ができる。
- 助手席装着時の警告がある。技術基準に定める表記がある。
- 取り付けおよび装着について、子供の体格別に説明がされている。
- 取り付け後の確認方法が記載されている。

梱包箱の表示

- 対象となる体重、身長のいずれかが表示（日本語）されている。技術基準に定める表示・適合基準表示がある。

取扱説明書はわかりやすくまとめられているか、自動車に詳しくない方でも理解できるかを判断します

装着性（チャイルドシートへの子供の着座）

ハーネス

- スロット位置が分かりやすい。
- 調節が簡単かつ確実に行える。

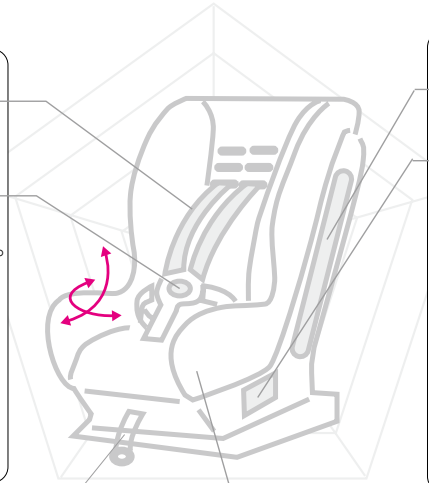
バックル

- 簡単な操作で確実なロックができる。
- 子供が解除しにくい解除力である（40N以上）。

着座状態

- 専門家がダミーを1分未満で適切に着座させられる。

操作はしやすいか、調節も簡単に確実に行えるか、複数の専門家が何度も試験します



本体表示

ベルトガイド

- 文字によって表示している。

表示内容

- 取り付け方法の表示がある。
- 助手席装着時の警告がある。技術基準に定める注意·警告が表示されている。
- 表現が適切で、誤解が生じない。
- 製品の問い合わせ先が表示されている。
- 製品が適合する基準が表示（マーク等でも可）されている。

本体に取付方法や警告などがきちんと表示されているか、適切な表現かを判定します

取付性（車の座席への取り付け）

ベルト·ルーティング

- 間違えにくく、通しやすい。車両側ベルトのねじれや折れが発生しない。

固定の確実性

- 一人で容易に確実な締め付けができる。
- 固定金具等は使いやすく、十分な固定ができる。
- 前向き等：取り付け後ぐらつきがない（98Nで上部を引き寄せた時、移動量が5cm未満）。
  後ろ向き：シートバックの角度が45度 ±10度未満である。
- 音や表示等により確実に固定されていることが確認できる。

ベルトがねじれにくく、ぐらつきのないしっかりした固定を1人でもできるかを確認します

本体機構

可動機構（リクライニング·回転の操作性）

- 確実にロックする。
  レバースイッチの位置が分かりやすい。

確実に稼働してさまざまな機構がスムーズに動くか、レバー位置がわかりやすいか判断します

- コネクタ及びトップテザーが簡単に操作できる。

シートカバー（メンテナンスの容易性）

- シートカバーを脱着した場合、ハーネス等の取り付けが間違えにくく、確実に取り付けられる。

収納部（取扱書·付属品の収納）

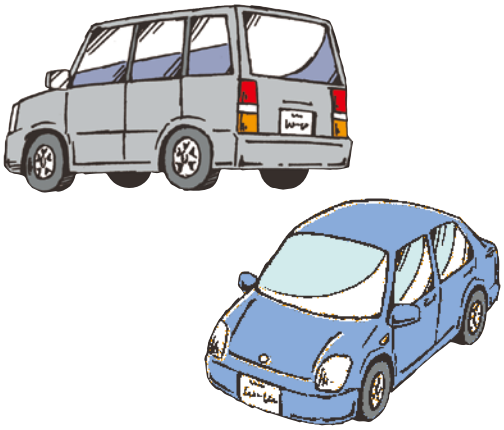
- 取扱説明書および付属品（ある場合）の収納部がある。

チャイルドシートは正しい知識で安全に利用しよう

■自動車との適合性

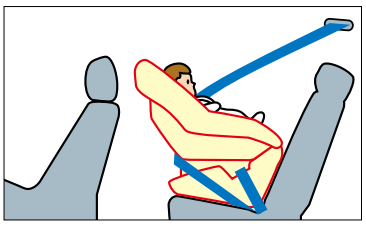
すべてのチャイルドシートが、すべての自動車に取り付けられるわけではありません。チャイルドシートメーカーなどから出されている「車種別チャイルドシート適合表」などを参考に取り付けられるかどうかを確認して、自分の自動車に適合したチャイルドシートを選びましょう。

自動車はサイズも形状もさまざま

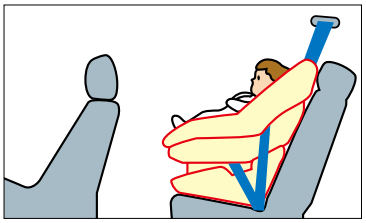


■取り付け方法

チャイルドシートの取り付け方法は、製品によって異なるため、それぞれの取扱説明書に従って取り付けてください。市販されている多くのチャイルドシートは、自動車のシートベルトを用いて座席に固定する方式が主流であり、シートベルトの通し方により2点固定式と3点固定式があります。



<乳児用>
乳児は、骨格等が未発達のため、衝撃をなるべく体の広い面で受け止める必要があり、頭部から背中にかけて体全体で支えられるように、乳児用チャイルドシート（ベビーシートとも呼ばれます。）を使用します。乳児用チャイルドシートは後ろ向き又は横向きに取り付けます。



<幼児用>
幼児が自分で座れるようになったら、幼児用チャイルドシートを使用します。幼児用チャイルドシートは前向きに取り付けます。

※使用時期の目安については、P3を参照して下さい。

■取り付け時の注意点

1.後部座席に取り付ける

助手席にエアバッグが装備されている場合に、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けることは、極めて危険ですので絶対にやめましょう。

2.しっかりと固定する

取扱説明書に従いしっかりと固定することが必要です。前向きのチャイルドシートの場合は、取り付けられたチャイルドシートの上端部に前方向に力を加えても大きく動かないよう（揺れは約30mm以内が目安）しっかり固定しましょう。ベルトストッパーがある場合、先にチャイルドシートに体重をかけ、車両の腰ベルトのみで固定できるぐらいに車両ベルトを引っ張り、ベルトストッパーで留めるとうまくできます。

3.着座時のやけどに注意する

炎天下での駐車時には、チャイルドシート本体、バックル、ベルトの金具部分などが熱くなり、やけどするおそれがあります。子供を着座させる際には、各部に触れて、確認した上で使用しましょう。

チャイルドシート安全基準マーク

国土交通省の安全基準に適合したものには以下のような型式指定マークか、型式認定マークが製品に表示してあります。なお、2006年10月にチャイルドシートに関する基準見直しが行われ、自動車基準の国際調和の観点から、国連の車両装置などの型式認定相互承認協定（1958年協定）に基づく規則第44号（第4改訂版）と整合が図られました。

1998年11月　2000年1月　2002年12月

運輸省型式認定マーク　旧基準マーク　現行基準マーク

運輸省型式認定マーク
（1998年11月まで）

C－ 123
チャイルドシートを示す記号　認定番号

旧基準マーク
基準施行年月 1998年11月
適用 2002年12月まで製作された製品

自 C－ 123
チャイルドシートを示す記号　型式指定番号（1～3桁表示）

現行基準マーク
基準施行年月 2000年1月
適用 2012年6月30日まで製作できる製品

2000／01　←基準施行年月
UNIVERSAL　←チャイルドシートの種類（注1）
9－36Kg　←対象とする年少者の体重範囲
（注1）
汎用チャイルドシートの場合は、「UNIVER
車両限定型チャイルドシートの場合は、「SP
兼用型チャイルドシートの場合は、「COMP

自
C－1234 ← 型式指定番号（4桁表示）
チャイルドシートを示す記号

■自動車のチャイルドシート取り付け具の種類

自動車のシートベルト

2点式シートベルト

前席中央及び後席中央に取り付けられているもの。なお、市販のチャイルドシートの多くは、2点式シートベルトに対応していません。2006年10月のシートベルト及びシートベルト取付装置に関する基準の見直しにより2012年7月以降新たに販売される乗用車（乗車定員10人未満）及び貨物車（車両総重量3.5トン以下のもの）は、3点式に変更されます。

2点式シートベルト

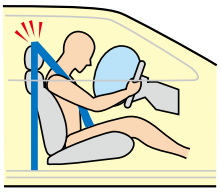
3点式シートベルト

2点式シートベルトが取り付けられる座席以外の座席に取り付けられているもの。なお、シートベルトの巻き取り装置には、次のELR式シートベルトなどがあります。

3点式シートベルト

ELR式（緊急ロック式）シートベルト

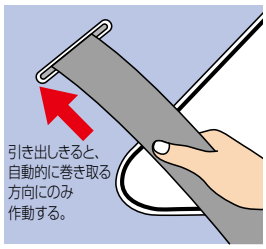
通常はシートベルトを自由に引き出せますが、急ブレーキなどの衝撃を感知した時のみシートベルトがロックする機能（ELR:エマージェンシー・ロッキング・リトラクター機能）を備えたものです。



チャイルドシート固定機能付シートベルト

（ALR〔自動ロック〕付きELR式シートベルト）

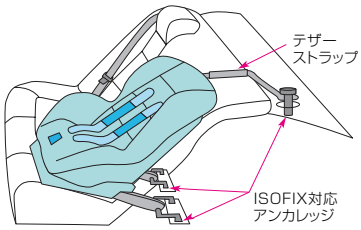
通常はELR機能ですが、シートベルトを全て引き出せばALR機能（自動ロック付巻き取り装置）に切り替わり、巻き込み方向にのみ動きますが、引き出せなくなります。チャイルドシートの取り付けに緩みが生じにくく、取り付けが比較的容易です。



⚠警告 子どもをシートベルトで遊ばせないで下さい。ALR機能に切り替わり、首や体に絡まった場合、ベルトがゆるめられなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどで切断して下さい。

共通取り付け具（ISOFIX）

ISOFIX対応のチャイルドシート取付具が座面の奥に付いている座席です。車種ごとに指定されたISOFIX対応チャイルドシートを組み合わせて使用します。また、2006年10月にチャイルドシートに関する基準の見直しが行われ、テザーストラップとの組み合わせにより、汎用型ISOFIXチャイルドシートが認められましたが、自動車が汎用型ISOFIXチャイルドシートに適応している必要があります。



チャイルドシート内蔵シート

通常は座席（後席が一般的）の中に折りたたんで収納されていますが、子供を乗車させるときには引き出して使用することができる子供用の座席です。なお、現在では、輸入車の一部に学童用（ジュニアシート）がオプション設定されています。

チャイルドシート
内蔵シート

学童用について

学童用 ジュニアシートと呼ばれることもあります。

適用体重15～36kg
身長が135cm以下
4～10歳くらい

学童用は車両のシートベルトの性能によるものが大きいということでアセスメントの対象としていません。チャイルドシートの使用義務は6歳未満ですが、シートベルトが正しく利用できるまでは、学童用シートを必ず使用しましょう。

注：対象となる身長、年齢は目安です。

2006年10月 ―― 2012年7月

新基準マーク

SAL」
ECIFICVEHICLE」
ATIBLE」

新基準マーク

基準施行年月 **2006年10月**

適用 **2006年10月1日以降に型式指定を受けた製品**

UNIVERSAL　9-18kg
- UNIVERSAL：チャイルドシートの種類（注2）
- 9-18kg：対象とする年少者の体重範囲

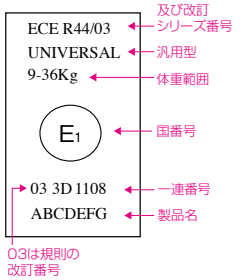
E43：当該装置を認可した国番号（43は日本）

04****：当該装置番号
- 04：規則第44号 第4改訂版（ECE R44/04）

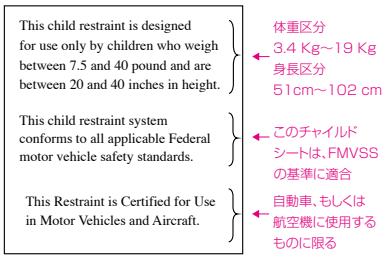
（注2）
汎用チャイルドシートの場合は、「UNIVERSAL」
準汎用チャイルドシートの場合は、「SEMI-UNIVERSAL」
車両限定型チャイルドシートの場合は、「RESTRICTED」
特定車両型チャイルドシートの場合は、「VEHICLE-SPECIFIC」

その他の安全基準マーク

欧州の基準適合マーク（ECE規則 R44/03）



米国の基準適合マーク（FMVSS No.213）



NASVA mobile で
いつでもどこでも車の安全情報を

携帯サイトで試験車の検索や自動車アセスメントの結果などが見られます。

※機種によっては正しく表示されなかったり、ご利用になれない場合があります。

http://www.nasva.go.jp/mobile/index.html

バーコード読み取り機能がついている携帯電話からQRコードを読み取ることで簡単に携帯サイトにアクセスできます。

国土交通省自動車不具合情報ホットライン

リコールの適正な実施のために自動車の不具合情報の提供を

- **ホームページ受付** http://www.mlit.go.jp/RJ/
- **フリーダイヤル受付** 0120-744-960（平日9時30分～12時、13時～17時30分）
- **自動音声受付** 03-3580-4434（年中無休·24時間）

このホットラインでは、自動車の設計または製造の過程に起因すると思われる故障、事故、車両火災などにかかる自動車の不具合情報を専用に受け付けます。なお、商品性、金銭上の問題などは対象外です。

チャイルドシートアセスメント

このパンフレットに対するご意見、ご要望などについては、下記にご連絡ください。パンフレットの内容はインターネットでもご覧になれます。

国土交通省 自動車交通局
技術安全部 審査課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL 03-5253-8111(代表)　FAX 03-5253-1640

国土交通省のホームページ
http://www.mlit.go.jp　●キーワード検索で　国土交通省　検索

独立行政法人 自動車事故対策機構
企画部 安全情報グループ

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-1-25
TEL 03-5276-4455　FAX 03-3239-9336

独立行政法人 自動車事故対策機構のホームページ
http://www.nasva.go.jp　●キーワード検索で　NASVA　検索

自動車事故対策機構は、独立行政法人として平成15年10月1日に設立され、自動車事故の発生の防止と、被害者保護の増進に向けて幅広い業務を推進しています。

●自動車事故防止のための事業
- ·運行管理者等の指導講習
- ·運転者の適性診断

●自動車事故による被害者保護の増進のための事業
- ·重度後遺障害者の援護（介護料の支給、療護施設の設置・運営）
- ·交通遺児などの援護（育成資金の無利子貸付、友の会の運営・家庭相談）

自動車アセスメント

安全な車選びのために自動車アセスメントについてもご覧ください。国土交通省および独立行政法人自動車事故対策機構のホームページでご覧になれます。

Japan New Car Assessment Program
JNCAP

交通事故被害に遭われ、相談先にお困りの方に！
各種相談機関の相談窓口のご紹介等をしております。

NASVA
交通事故被害者ホットライン
（ナビダイヤル）　すぐナスバ
0570 - 000738
9：00~17：00（土・日・祝日・年末年始を除く）

※固定電話であれば、全国どこからでも3分8.5円（税別）で通話することができます。

○本パンフレットは、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づく基本方針の基準を満たす紙を使用しています。

監修:国土交通省　発行:独立行政法人 自動車事故対策機構

※無断転載を禁ず

2011.3